

令和4年度

印西市民アカデミーだより

第20号

講座19：歴史散策⑥戸定邸

悪天候のため延期になっていた講座19「歴史散策⑥戸定邸」が、3月10日(金)に実施されました。当日は、春の柔らかな日差しが降り注ぐ最高の天気になりました。

戸定邸は、1884年(明治17年)水戸藩最後の藩主だった徳川昭武が建設したもので、基本的には江戸時代の大名家敷を伝える数少ない貴重な木造建築です。純和風、木造平屋一部二階建て、増築を経て、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23を数えます。縄文杉等の最上等の杉材をふんだんに使う一方で装飾を最小限に留めた空間には、静かな気品が漂っています。特に、表座敷棟の四面正目の杉柱や奥座敷等棟の黒柿の床框は一見の価値があります。

その戸定邸の一部である「使者の間」が終戦直後に切り離されてその後行方が分からなくなっていました。1996年に印西市発作に移築されていることが分かり、1997年に解体し、不足する材料を同じようにそろえたりして普通の工法で復元されました。欄間には福を呼ぶという「こうもり」が施されています。この時の復元費用は約8千万円とのこと。

戸定邸表座敷棟の南と西には芝生の庭園が広がります。徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ庭園です。洋風技法による芝生面を真南から東側へと連なるコウヤマキと西北部のアオギリが木立をなしてはさみ、南西方向の松の木立越しに東屋があるもう一つの庭園へとつながっています。洋風技法による芝生面は我が国現存最古で、樹木の木立を主要景観に取り入れる手法は類例がありません。ちょうどこの日は、庭園に下りられる日ということで、庭園から戸定邸をじっくり眺めることができました。標高25mの戸定邸からは西に望む江戸川と富士山、東京スカイツリーも見えます。現在、かつて7万㎡を超えていた敷地の3分の1が戸定が丘歴史公園となっています。江戸川や富士山を望める標高25mほどの園内には、クスノキやヒヨクヒバの巨木が残り、梅やベニシダレザクラなど四季折々の花を楽しむことができます。戸定邸に隣接する戸定歴史館を見学したあと、春の柔らかな日差しがふりそそぐ公園のベンチでお弁当をひろげながら少し早い春を楽しみました。

